

安全報告書

2019年度



横浜高速鉄道株式会社

ごあいさつ

平素より横浜高速鉄道みなとみらい線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

横浜高速鉄道では、運行の基本である「安全の確保」は、すべてに優先される最も重要な責務であると考え、安全を最優先とする企業風土の定着に社員一丸となって取り組んでおります。

本報告書は、2019年度の当社における輸送の安全の確保に関する取組みや、鉄道運転事故等の発生状況と再発防止対策などを報告するものです。2019年度は、お客様に安心してご利用いただけるよう、馬車道駅および元町・中華街駅に可動式ホーム柵を設置しました。また、災害に備えた防災訓練として列車一斉停止訓練や大規模地震を想定したトンネル内でのお客様の避難誘導と関係各所への連絡訓練、テロ発生時の対応訓練を実施しました。こうした訓練等を通して、事故・災害に対し社員一人ひとりが迅速かつ的確な初期対応を行い、お客様の安全確保が図れるよう、さらなる安全管理体制の構築に努めてまいります。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、当社における安全の確保に向けた取組みを皆様に広くご理解いただくために作成いたしました。

是非ご一読いただき、ご意見ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

2020年6月

横浜高速鉄道株式会社

代表取締役社長 鈴木 伸哉



目次

● 会社概要	1
● 安全に関する基本方針	2
● 安全管理体制	3
● 安全確保の取組み	5
● 障害・事故	12
● 安全対策	13
● 営業路線図	16

会社概要

- 名称

横浜高速鉄道株式会社

- 所在地

神奈川県横浜市中区元町一丁目11番地

- 設立

1989年3月29日

- 事業内容

1. 鉄道事業

(みなとみらい21線：第一種鉄道事業者、こどもの国線：第三種鉄道事業者)

2. 鉄道施設内における日用雑貨・飲食物等の販売、飲食業、広告業および旅行業等のサービス事業

3. 不動産の売買、管理および賃貸

4. 前各号に付帯関連する一切の業務

経営理念

- 一 私たちは、公共交通機関としての使命を深く自覚し、運行の基本である安全を最優先とし、快適で利便性の高いサービスを提供します。
- 二 私たちは、鉄道事業を通して横浜都心部の活性化や沿線の集客を図るとともに、首都圏の広域的な交通ネットワークの一翼を担います。
- 三 私たちは、健全で安定した鉄道経営を目指します。

安全に関する基本方針

当社では輸送の安全を確保するため、「安全方針」を定め、全社員に周知・徹底を図っております。

●安全方針

1. 常に安全を最優先とし、人命を第一に行動します。
2. 法令・規程等を遵守し、厳正に職務を遂行します。
3. 思い込みや憶測に頼らず、迅速かつ正確に対処します。
4. 気づき合う職場環境をつくるため、コミュニケーションを大切にします。
5. 問題意識を高く持ち、安全マネジメント態勢の継続的改善に取り組みます。

●社員行動規範

1. 企業の社会的使命を認識し、各種法令、規範を遵守し、公正な事業活動につとめます。
2. お客様に安心して、気持ちよくご利用いただける鉄道を目指すため、まず、お客様の視点に立って考えます。
3. 経営情報などの情報を適時、適切に開示します。
4. 事業活動で取得した情報を大切に扱い、社内規定に基づき管理を徹底します。退職後も秘密を保持します。
5. ひとたび事故が起これば、お客様の人命に関わる事業であることを認識し、安全マネジメント体制を確立するとともに、危機意識を持って事に当たります。
6. 環境に配慮した事業活動を行い、環境への負荷を減らし、資源を有効に活用する努力をします。
7. 人権意識を高め、あらゆる差別を廃し、個人を尊重します。
8. 社会的秩序に反する勢力に対しては毅然とした態度で臨みます。
9. セクシュアルハラスメント等差別のない、個人を尊重する働きやすい環境を創ります。
10. 会社は自己実現の場である事を認識し、自ら考え、失敗を恐れず挑戦し、自分の持てる能力を十二分に発揮します。チームとしての力が最大となるよう、和を大切に、誠実に行動します。

●安全重点施策

全社的な安全対策の深度化と安全意識の底上げ

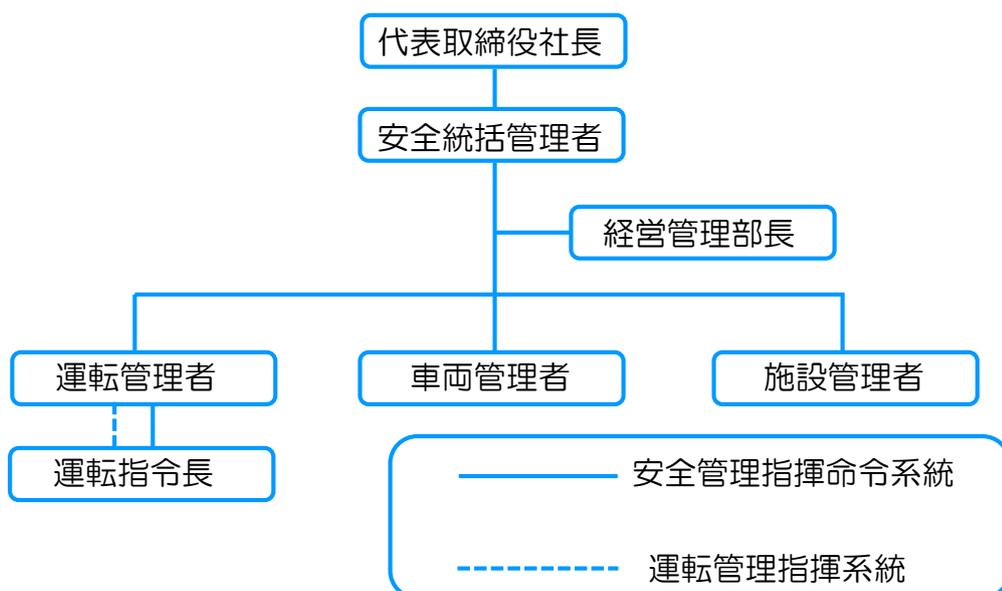
- ・各課は、災害・事故対策規程に基づき、異常時における課内連絡体制および協力会社との連絡体制の再確認と再周知を行い、連絡体制の強化を図ると共に有効性を検証する
- ・災害・事故対策規程に基づく各課役割の再周知および災害・事故対策本部設置訓練の実施と有効性の検証
- ・ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据えた多客時対応や輸送障害、テロ対策等の訓練実施と検証

安全管理体制

代表取締役社長を最高責任者として、安全統括管理者をはじめとする各管理者の責務を明確にして安全管理体制を構築し、運輸安全マネジメント態勢の継続と改善に取り組んでいます。

●安全管理体制

安全管理体制図



●各責任者の責務

代表取締役社長：輸送の安全の確保に関する全ての責任を負う。

安全統括管理者：輸送の安全の確保に関する業務を統括する。

経営管理部長：輸送の安全確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

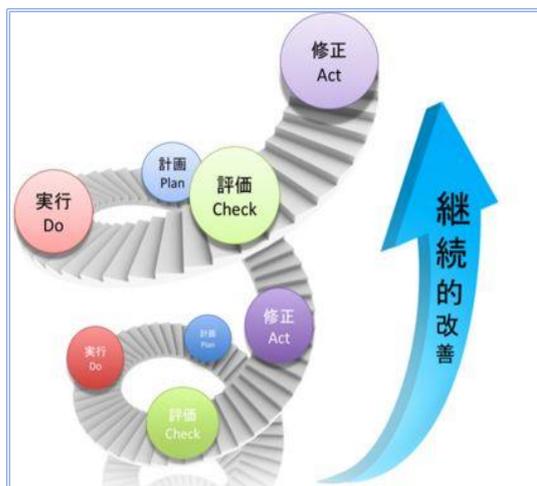
運転管理者：運転に関する事項を統括する。

車両管理者：車両に関する事項を統括する。

施設管理者：鉄道施設に関する事項を統括する。

●運輸安全マネジメント態勢の継続と改善

安全管理体制のPDCA サイクル



◆安全推進会議

安全統括管理者を議長に、経営管理部門、運輸部門の部長、課長および係長がメンバーとなり毎月開催しています。事故・障害の情報共有と原因究明・対策の検討等、安全に関する事項について審議しています。

◆安全マネジメント内部監査

内部監査研修修了者と同等の能力を有する者の中より、安全統括管理者が指名した者で構成し、代表取締役社長、安全統括管理者、経営管理部門、運輸部門に対し監査を実施しています。

安全確保の取組み

● 駅異常時対応訓練

2019年5月22日（水）～5月24日（金）に、列車防護、信号炎管の使用方法（実施訓練）、信号保安装置故障の取扱い方法、事故発生時の処置、テロ災害発生時や大規模地震を想定した避難誘導方法等について、教育・訓練を実施し緊急時の対応方法を再確認しました。

今後も継続して教育・訓練を実施し、駅係員の異常時対応を含めた対応方法の習熟を図ってまいります。

● 防潮板・防潮シート設置訓練

2019年7月17日（水）に、防潮板・防潮シートの使用を想定した設置訓練を実施しました。



防潮板の設置訓練

●テロ対策合同訓練

2019年7月29日（月）に、有毒ガスが散布され負傷者が多数発生する想定でテロ対策訓練を実施し、関係機関との連携、連絡体制の確認、社員の危機管理意識の高揚を図りました。



駅係員による避難誘導



みなと赤十字病院医師によるトリアージ



負傷者の救護



有毒物の処理

●列車一斉停止訓練

2019年9月1日（日）「防災の日」の13時00分に、地震発生を想定した列車一斉停止訓練および緊急情報の受発信訓練を行いました。またこれらの訓練を通して、地震発生時の指示方法や連絡通報方法について再確認しました。

今後も継続して訓練を実施し、運転指令員の異常時取扱いについて習熟を図ってまいります。

●安全統括管理者講話

2019年9月4日（水）～9月6日（金）に、現業と本社員を含めた全社員を対象に安全統括管理者が講師となり、安全管理規定および安全管理体制等の「安全に関する教育」を行いました。

当社の安全管理体制は、全社員が理解して行動するべきものであるため、今後も継続して実施してまいります。



安全統括管理者講話

●元町・中華街駅、アメリカ山公園合同防火訓練

2019年10月11日（金）に、アメリカ山公園内からの出火を想定した防火訓練を、横浜市中消防署、アメリカ山公園テナント、駅および本社合同で実施しました。

今後も継続して訓練を実施し、関係各所との相互の自衛消防活動能力の向上を図ってまいります。



避難訓練



AED 講習会

●安全推進大会の開催

2019年10月30日（水）に、当社と協力会社の安全推進の維持および向上を図ることを目的として、「安全推進大会」を開催しました。

電気、土木、建築、運輸営業部門の協力会社56社（約109名）が参加しました。

当社および協力会社の代表が安全の取り組みについての発表のほか、外部講師による特別講演「「安心」のしおり ～「ALL FOR YOU」の精神で守る空の安全～」を行い、安全

に関する意識の向上、協力会社との安全意識の共有を図ることが出来ました。

今後も継続して開催し、協力会社を含む安全推進の維持および向上を図ってまいります。



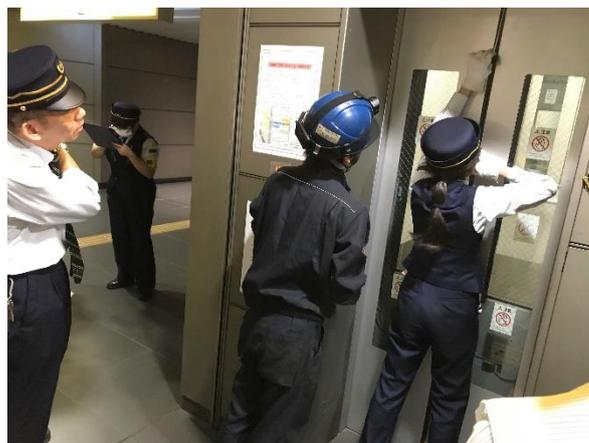
安全統括管理者による講話

●エレベーター閉じ込め救出訓練

エレベーター内に閉じ込められたお客様を早期救出する事を目的として、駅係員がメーカーの補助によらず単独でエレベーター操作ができるよう、2019年11月13日（水）～11月15日（金）、2020年1月28日（火）・1月29日（水）にメーカー、駅監督者、係員でエレベーター閉じ込め救出訓練を実施しました。



メーカー技術員による説明



駅係員による訓練

●異常時総合訓練

2019年11月29日（金）の終電後に、大規模地震の発生を想定した異常時総合訓練を実施しました。

運転指令員、乗務員、駅係員および本社員が合同で、地震発生時における関係各所への連絡通報、脱線により運行不能となった列車のお客様を非常梯子使用により降車させ、最寄り駅まで避難誘導する訓練を実施しました。

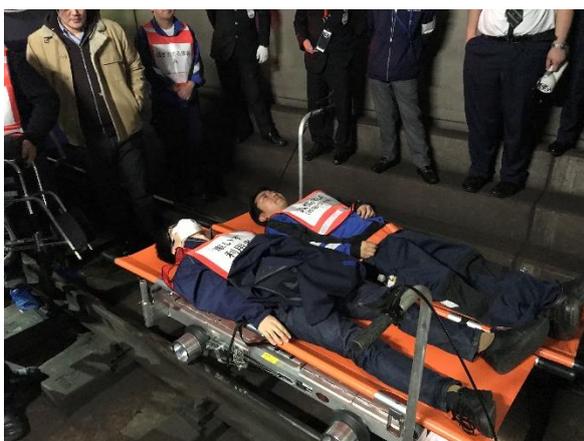
今後も継続して訓練を実施し、重大事故発生時の知識・技能の向上を図ってまいります。



救護訓練



非常梯子使用による降車



搬送トロを使用した最寄り駅までの搬送



経営トップによる講評

●経営トップによる安全講話および現場巡視

2019年12月11日（水）～12月13日（金）に、全社員を対象に社長安全講話を実施しました。安全とは何か、過去事故事例から学ぶ課題、安全確保に対する心構えなど安全確保の重要性をあらためて確認しました。

また、安全総点検期間中に、経営トップを含む幹部の下で自主点検を実施し、駅や運転指令所等の現業部門への巡視を通じ、現業監督者との意見交換を行うことで、経営方針で掲げる安全最優先の意識をより強固なものにしています。

今後も継続して実施し、安全意識の向上を図ってまいります。



社長安全講話



社長巡視

●日本電設工業株式会社NDK安全文化創造館見学

2020年2月4日（火）、2月17日（月）、2月18日（火）に、他社事例を学ぶ取り組みとして、日本電設工業株式会社NDK安全文化創造館を見学し、VRによる触車・感電等の疑似体感などを通じ、事故の怖さや悲惨さを体験し、安全への意識向上を図りました。

●AED使用訓練

2020年2月19日(水)～2月21日(金)に、緊急時のAED使用を想定した救護訓練を実施しました。



AED使用方法の説明



AED使用訓練

●災害・事故対策本部設置訓練

2020年3月26日(木)に、大規模災害発生時における各課の初動対応の内容と災害・事故対策本部設置までの流れ、対策本部設置後の業務内容等について、「災害・事故対策規程」および「異常時初期対応マニュアル」を基に再確認を行うとともに、復旧体制を確実なものとする事を目的に災害・事故対策本部設置訓練を実施しました。

障害・事故

- 鉄道運転事故**（列車脱線事故、鉄道人身障害事故等）

鉄道運転事故は発生しませんでした。

- 輸送障害**（鉄道に起因する30分以上の遅延や運休等）

輸送障害は発生しませんでした。

- インシデント**（事故の兆候）

インシデントは発生しませんでした。

安全対策

●可動式ホーム柵の整備

お客様の線路転落や、列車接触事故防止のため、2019年9月14日（土）より馬車道駅、2020年3月28日（土）より元町・中華街駅で可動式ホーム柵を供用開始しました。

駅ホームにおける更なる安全性向上を図るため、早期にみなとみらい線全駅に、可動式ホーム柵を整備してまいります。



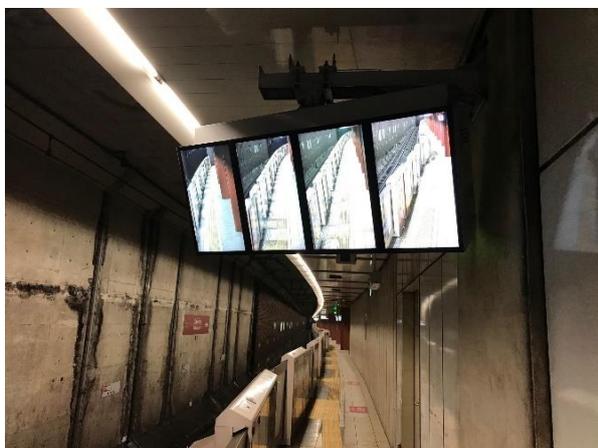
馬車道駅可動式ホーム柵



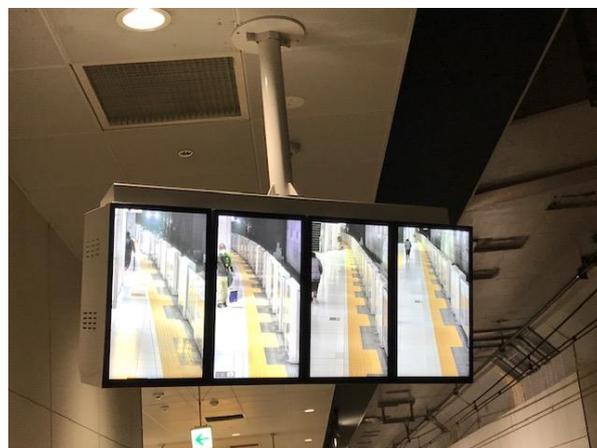
元町・中華街駅可動式ホーム柵

●車掌用 | TVカメラ高画質化

お客様のドア挟み込みや安全確認のため、みなとみらい駅、馬車道駅および元町・中華街駅の車掌確認用モニタ大画面化、カメラ高画質化を図り視認性を向上しました。



馬車道駅車掌確認用モニタ



元町・中華街駅車掌確認用モニタ

●駅構内カメラ更新

駅構内の安全を確認するため、構内カメラの更新を実施し、死角をなくすとともに高質化を図りました。



駅構内カメラ

●非常停止ボタン更新

列車接触事故防止の為、ホーム上の非常停止ボタンの更新を実施し、信頼性を向上させました。



非常停止ボタン

●AEDの設置

みなとみらい線では、全駅にAED（自動体外式除細動器）を設置し、お客様の救急救命に備えています。



各駅のAED

●ATC（自動列車制御装置）

みなとみらい線では、信号保安装置としてATC（自動列車制御装置）を採用しています。これは、列車が連続的に速度情報を受信し、走行速度が定められた速度を超えた場合には自動的にブレーキが作動するシステムです。

本報告書に関するお客様のご意見をお寄せください。

「2019年度 安全報告書」の内容や当社の安全への取組みについてのご意見・ご質問は「横浜高速鉄道お客様電話」または「横浜高速鉄道ホームページ」で承ります。

横浜高速鉄道お客様電話

TEL：045-664-0629

（受付時間：平日 AM9:00～PM5:30、土、日、祝日、年末年始（12/29～1/3）を除く）

横浜高速鉄道ホームページ

<http://www.mm21railway.co.jp>

※画面最下部「お問い合わせ」よりご意見をお寄せください。